

はまごろう小だより

あいさつ えがお
挨拶と笑顔でつながろう！

伊勢市立浜郷小学校

令和3年12月13日

発行者 平生 理恵

第21号

令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果より

5月27日に実施した、全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、全国統一しての実施は行われませんでした。この調査は6年生のみ行われるもので、昨年度を除き毎年行われています。学力調査としては国語と算数の2教科行い、学習状況調査では子ども達の生活習慣や学習習慣及び学習意欲などを児童質問紙で調査しました。

学力調査については、以前は基礎的な知識や技能の活用力を問うA問題と応用力を見るB問題とに区別して行われていましたが、前回からはそれらの区別がなくなり、基礎・基本と応用力を総合的に見る構成となりました。学習指導要領が新しくなり、学習する子どもの視点に立って、育成を目指す資質・能力の要素が整理されました。そこで、学校では、生涯にわたって学習基礎が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに力を入れています。結果については短絡的に正答率や全国平均との差に表れる数値だけにとらわれて一喜一憂するのではなく、調査結果から見てくる傾向や課題をしっかりと分析し、今後の指導の充実や学習状況の改善に生かしていくことが何より大切なことだと考えます。本校では、自校採点を行い、その結果を受けて子ども達の強み・弱みを明らかにして全教員でそれらを共有しました。そして、結果から見てきた子ども達の課題解決に向けて、今後の授業改善に取り組んでいきます。6年生の子ども達には、個人の結果を渡させていただきますので、各ご家庭でもお話し合いいただくこともよいかと思えます。

< 学力について >

学力調査は、国語と算数の2教科について行われましたが、本校の6年生は、平均正答率においては、国語では全国平均より0.2ポイント、算数においては2ポイント上回っていました。

国語については、知識・技能の観点では全国平均68.3に比べ、75.5と非常に高かったです。特に、言葉の特徴や使い方に関する事項、つまり、漢字などの基本的な事項について力がついていることがわかります。その一方で、思考・判断・表現の観点においては、短答式の問題はよくできていますが、記述式の問題については非常に低いという結果となりました。総合して考えると、知識・技能を活用する力に課題があると思われます。今後の改善策として、日常的に授業で行っている「まとめ」「ふり返し」を書く際に、キーワードを指定したり字数制限をしたりするなど、条件を指定して書く練習を繰り返し行ってみてはどうかと考えています。

算数については、式を考えたり、選択肢の中から答えを選んだりする問題については全般的に正答率が高くなっていました、しかし、式の意味や考えたことを文章で説明する問題については正答率が大きく下がる傾向が見られました。今後の改善策として考えられるのは、公式そのものを単に覚えるのではなく、公式の意味を考えたり、その立式に至った経緯を説明したりする機会を増やすことだと思います。また、答えの導き方もいろいろな意見を交流することで考え方が広がると考えられます。その一方では基礎基

本の定着は必須であるので、従来通り朝学や家庭学習、ドリルパークなどを用いて繰り返し学習をさせていこうと思います。

<学習状況について>

児童質問紙により、子ども達の生活習慣や学習習慣及び学習意欲などを調査しました。調査結果から、基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いことがわかりました。しかし、学習習慣については、授業時間だけにとどまっている児童が多く、家庭学習については与えられた宿題で満足してしまっています。学習意欲を見てみると、どの教科についても学習意欲が高いため、子ども達の自学、自主学習を充実させるための働きかけを丁寧に行っていく必要があると考えています。本校は家族に関わってもらえる環境の児童が多いことも見られるので、今後も家庭、地域と連携しながら、取り組んでいきたいと思っています。今後ともより良い生活習慣や学習習慣の定着についてはご家庭での見守りや励ましをよろしくお願いいたします。

人権週間に合わせて、各学年部で人権集会を行います！

12月4日～10日は人権週間です。浜郷小学校ではこの人権週間に合わせて8日(水)、9日(木)、10日(金)の3日間、各学年部で人権集会を行います。人権集会ではそれぞれに子ども達書いた人権作文をもとに人権について考えます。そこで、“なかざき通信”に投稿させていただいたものですが、私なりに経験したこと、感じたことを文にしたものを学校だよりも載せさせていただきます。

『違い』と『間違い』

人は成長とともにいろいろな体験をすると同時に、さまざまな違いを気にするようになります。自分を基準にして物事を考えていくと、別の考え方は違うものという認識になります。その違いに気付いたとき、「そういうこともあるのか」「そういう考え方もあるのか」と自分の認識を広げようとする人もいれば、違うものや違う考え方を排除しようとする人もいます。毎日子どもたちと接していると「子どもっていいなあ」と、子どもの感性から学ぶことが沢山あります。そんな中の一つの話です。

ずいぶん昔のことになりますが、我が子が保育所にお世話になっていたときのことで。あるお友達がしばらく欠席していて、治療のため顔に大きな絆創膏を貼って遅れて登園してきました。その子のお母さんは、回りの子にいろいろ聞かれたりはしないか、そのことを理由にいやなことを言われたりはしないかと心配で、すぐには帰れず様子を隠れて見ていたそうです。すると、その子を見つけた子ども達は、みんな一緒に「あっ、〇〇くんが来たー、一緒にあそぼー」と言って駆け寄り、あっという間に一緒に遊び始めたのです。その子のお母さんはその様子に安心してようやくその場を去ることができたのだと話してくれました。お母さんにとってはその絆創膏の下にある、我が子と他の子の違いが気になっていたのだと思いますが、子ども達は大好きなお友達が来たことが嬉しくて、大きな絆創膏のことなどどうでもよかったのです。

いくつになってもみんなと違うことを心配するのではなく、この子ども達のように、それぞれの状態を認め受け入れられる感性を持ちたいと思います。その一方で、明らかに間違っていることについては、「おかしい」「間違っている」と声に出すことはとても大切なことです。その場に波風を立たせたくないという思いで、間違いを見逃してしまうことで、本当に正しいことが認められなくなることもあります。

これから遭遇するさまざまな場面においても、『違い』を認め『間違い』を許さないという感性を持ち続けていきたいものです。